

7/7(土) コスモブリッジ開通式

菊池市七城町林原の菊池川に架かる「コスモブリッジ（人道橋）」の開通式が、関係者など約 100 人が出席して行われました。

この橋は、生活者がゆとりと潤いの実感できる質の高い歩行者空間を形成することを目的とした「ウォーキングトレイル事業」の一環で建設され、平成 14 年度から事業着手し平成 18 年 3 月に完成しました。

開通式では、野中道夫さん・栗原三郎さんそれぞれ 3 世代の夫婦を先頭に、関係者や地元住民などで渡り初めを行い完成を祝いました。

今後はこの橋が、地域のランドマークとして、また、隣接する観光施設や秋に行われるコスモ祭などで、来訪者や地域住民に親しまれることが期待されています。



開通式で渡り初めを行う関係者

7/8(日) 第57回「社会を明るくする運動」菊池市集会

青少年の非行防止と罪を犯した人の更正について理解を深めることを目的に、「社会を明るくする運動」菊池市集会が文化会館大ホールで行われました。犯罪のない明るい菊池市を創ろうと約 700 人の市民が集まり、法務大臣・県知事からのメッセージ伝達や、隈府小学校音楽部の皆さんによるエネルギーで楽しい器楽演奏、啓発ビデオ「二つの道」の上映などがありました。また、熊本保護観察所所長の河内 昭さんによる「保護観察について」という演題での講演もありました。

この大会の作文募集には、市内の小・中・高校からたくさんの作品が寄せられ、優秀賞の受賞者は集会の席で表彰され、作文の発表もありました。受賞者は次のとおりです。（敬称略）

- ・池田卓矢（迫水小6年）「じいちゃんの 49 日」
- ・菅 綾乃（七城中2年）「温もりにふれて」
- ・平井あゆみ（菊池農高2年）「あゆみの歩み」



作文「あゆみの歩み」を発表する平井さん



「保護観察について」と題して講演する河内所長

7/8(日) 菊池市消防団泗水方面隊消防操法大会

菊池市消防団泗水方面隊で、消防操法大会の予選会がありました。

総合体育館駐車場で行われた大会では、泗水方面隊の佐々木隊長が「これまでの訓練の成果を十分に発揮してください」とあいさつ。選手を代表して久川靖雄さん（第 24 分団 1 部 2 班・三万田）が選手宣誓し、各分団から出場した 22 チームと本部機動隊の選手たちは、連日にわたるナイター訓練の成果を披露しました。

7月 29 日（日）開催の菊池市支部消防団操法大会への出場チームは、次のとおりです。

小型ポンプの部 本部機動隊（泗水班）、第 23 分団 1 部 2 班（富）、第 21 分団 2 部 1 班（永）、第 23 分団 2 部 1 班（村吉）、第 23 分団 2 部 2 班（富の原）、第 24 分団 2 部 1 班（高江・高江出分）、第 20 分団 2 部 2 班（福本一・田吹）

操法大会は、火災のいかなる状況下においても安全確実かつ迅速に任務を遂行し、技術の練磨と部隊としての連帯を体得するために毎年行われています。



総合体育館駐車場であった泗水方面隊の操法大会

7/4(水) 二輪車部品メーカーの(株)伸勢産業と九州柳河精機(株)と立地協定

アルミ鋳造（ちゅうぞう）部品加工を行う、(株)伸勢産業（静岡県浜松市）の菊池市への進出と、二輪・四輪部品メーカーの九州柳河精機（株）（菊池市旭志川辺）の工場増設が決まり、菊池市と企業との立地協定調印式がそれぞれ県庁でありました。

伸勢産業は、主要取引先のホンダが二輪車の生産を熊本製作所へ集約することにあわせて、泗水町吉富への進出を決定しました。既存の工場 3,489 ㎡に 362 ㎡を増設し、二輪車のエンジンやフレームの表面処理や塗装を行い、50 人の地元雇用も予定されています。一部操業開始は 9 月の予定です。

同社の待谷典明代表取締役は「かねてより熊本への進出を考えていました。今回は大きなビジネスチャンスと捉えており、地元の方々のお力添えをいただきながら成長していきたいです」と話されました。

九州柳河精機は、現在の敷地内に新たに鋳造・機械加工

の 2 工場 2,700 ㎡を増設します。ホンダの二輪車集約を見据えてのことで、同社の先端技術は世界でも認められていて、トヨタやダイハツ、海外のバイクメーカーへも出荷されています。今回の増設で、より高度で精密な製品の増産体制が整うこととなります。

同社の河口二郎代表取締役社長は「今回の増設で、より高い技術での二輪車・四輪車への部品供給が可能となります。これからも地域の方々の期待に沿えるように頑張りたいです」と話されました。

福村市長からは「雇用情勢が依然厳しい中、企業進出や工場増設により、両社とも新たな雇用を計画されていると伺いました。市民にとっても大変明るい話題であり、今後でもできる限り協力していきたいです」と期待をこめた挨拶がありました。



調印式で手を取り合う 3 人。左から福村市長、中川県商工観光労働部次長、待谷代表取締役



調印式で手を取り合う 3 人。左から福村市長、島田県商工観光労働部長、河口代表取締役社長

7/4(水) 「妻籠座(つまごめざ)」が紙芝居の原画展を開催

紙芝居のボランティアグループ「妻籠座（原保奈美代表）」が、菊池夢美術館で 7 月 4 日（水）から 7 月 11 日（水）まで、「菊池に伝わる昔ばなし」の紙芝居に使用している原画展を開催しました。

同グループは、子どもたちに伝わる昔ばなしの温かさを紙芝居で伝えようと、各種イベントなどで年間 10 回程度、紙芝居の実演をしています。15 人のメンバーが書き手や描き手などに分かれて作成した題目は現在 7 話で、今回はその原画すべてが展示されました。その 7 話は、約 30 年前に当時の市民講座として行われていた「菊池市高齢者大学」が編集した冊子「菊池むかしむかし」から選んで編集・作成されたもので、1 話につき 11 枚から 12 枚の原画があります。

原代表は「多くの人に見てもらって『菊池にもこんな話があるんだ』ということを知ってもらいたいです。そして、今回は旧菊池市だけのお話なので、今後は菊池市全体に活動の輪が広がってほしいなと思っています」と話されました。



原画の前で紙芝居を披露するメンバー